

# スペイン語の使役交替：自動詞構文における再帰代名詞 *se* について

2013年1月30日(水) Luncheon Linguistics  
博士後期課程 熊倉英己 hideki\_kumakura@yahoo.co.jp

## 0. はじめに：本発表の目的

スペイン語の使役交替、その自動詞構文に現れる再帰代名詞の *se* に関する研究報告。

## 1. スペイン語の使役交替：自動詞構文に見られる現象

### 1.1. 自動詞構文が再帰形の例

再帰代名詞の *se* → 「自分自身を/に」：概ね英語の *oneself* に相当。

(1) *abrir* を開ける/*abrirse* が開く, *cerrar* を閉める/*cerrarse* が閉まる, *hundir* を沈める/*hundirse* が沈む, *romper* を壊す/*romperse* が壊れる, *secar* を乾かす/*secarse* が乾く, etc.  
以下、この動詞グループを「他再動詞」と呼称。<sup>1</sup>

- |  |  |
|--|--|
| (2) a. <i>Juan abrió la puerta.</i><br>Juan opened the door<br>「フアンはドアを開けた」：他動詞構文    | b. <i>La puerta se abrió.</i><br>the door REFL opened<br>「ドアが開いた」：自動詞構文  |
| (3) a. <i>María rompió el espejo.</i><br>María broke the mirror<br>「マリアは鏡を割った」：他動詞構文 | b. <i>El espejo se rompió.</i><br>the mirror REFL broke<br>「鏡が割れた」：自動詞構文 |

自動詞構文の(2b), (3b)では、*se* を取り除くと非文になる。

\**La puerta abrió.*                    \**El espejo rompió.*  
the door opened                    the mirror broke  
*se* = 他動詞を自動詞化するマーカー。

スペイン語の使役交替：自動詞構文では *se* と共起するケースが多い。<sup>2</sup>

### 1.2. 自他同型の例

(4) *augmentar* を増やす/が増える, *cambiar* を変える/が変わる, *disminuir* を減らす/が減る, *hervir* を沸騰させる/が沸騰する, *reventar* を破裂させる/が破裂する, etc.  
以下、この動詞グループを「他自動詞」と呼称。

- |  |   |
|--|---|
| (5) a. <i>El gobierno aumentó la inflación.</i><br>the government increased the inflation<br>「政府がインフレを増大させた」：他動詞構文 | b. <i>La inflación aumentó.</i><br>the inflation increased<br>「インフレが増大した」：自動詞構文 |
| (6) a. <i>Juan hirvió la leche.</i><br>Juan boiled the milk<br>「フアンはミルクを沸騰させた」：他動詞構文                               | b. <i>La leche hirvió.</i><br>the milk boiled<br>「ミルクが沸騰した」：自動詞構文               |

<sup>1</sup> 日本のドイツ語学で使用される用語のようですが、便利なので今回の発表では借用させていただきます。

<sup>2</sup> 発表者が Levin & Rappaport Hovav (1995)の巻末にある英語動詞リストを参考にし、対応するスペイン語の使役交替動詞を調査した結果、自他同型の動詞が 39 例にたいし、*abrirse*(open *intr.*)のように自動詞構文が再帰形となる動詞は 199 例であった。

## 2. 先行研究

### 2.1. Moreno Cabrera (1984)

・「他再動詞」は**本来的には他動詞**。

他動詞を自動詞化するマーカーとして(2b)や(3b)のような例では *se* が現れる。<sup>3</sup>

他動詞→自動詞

・一方、「他自動詞」は**本来的には自動詞**。

ただし、このグループは非対格動詞なので、外項の位置が空所。

空所に主語を付け加えたのが(5a)や(6a)のような例なので、そもそも *se* の入る余地はない。

自動詞→他動詞

### 2.2 Mendikoetxea (1999)

「他再動詞」は**外的原因が想起される動詞グループ**。<sup>4</sup>

「*palidecer* : 青ざめる」や「*florecer* : 花が咲く」のような主語自身の内部の力で生じる動詞グループは使役交替しない。

(7) a. *María palideció.*

*María* *paled*

「マリアが青ざめた」

b. \*{*Juan/El susto*} *palideció a María.*

{*Juan/the fright*} *paled (to) María*

「フアンが/その恐怖がマリアを青ざめさせた」

\*ただし「他自動詞」(*aumentar* を増やす/が増える, etc.)への詳細な言及はない。

### 2.3. Sánchez López (2002)

「他再動詞」と「他自動詞」の特徴として：

・「他再動詞」の語彙アスペクトは明確な到達点を持つ完結相。

・「他自動詞」(原文では「中立動詞 *verbos neutros*」)は *aumentar* のように事象の到達点が想定しづらい動詞が多い。

## 3. 問題提起

1 : 「他自動詞」の *cambiar*(英 : *change*)や *mejorar*(英 : *improve*)には派生形容詞として *cambiable*(英 : *changeable*)や *mejorable*(英 : *improvable*)が存在するが、*-able* 型の形容詞は、通常は他動詞から派生される。<sup>5</sup>

全ての「他自動詞」が自動詞から派生していると言い切れるのだろうか。<sup>6</sup>

2 : 「他再動詞」は外的原因が想起される動詞グループであるが、「他自動詞」では外的原因が想起されてはいないのだろうか(*hervir* 「を沸騰させる/が沸騰する」等)。

3 : 紛うことなき完結相である「他自動詞」も存在するが、そこに「他再動詞」との相違点はないのだろうか。*detonar* (英 : *detonate*), *empezar* (英 : *begin*), *explosionar* (英 : *explode*), *hervir* (英 : *boil*), *reventar*(英 : *burst*), etc.

<sup>3</sup> Moreno Cabrera は Lucien Tesnière の理論を参考にしている (後退態質 *diathèse récessive*)。

<sup>4</sup> Mendikoetxea (1999)は Levin & Rappaport Hovav (1995)を参考にし、スペイン語の使役交替動詞に適用している。

<sup>5</sup> 英語の *-able* 型形容詞に関しては影山 (1996) p.156 を、スペイン語の *-able* 型形容詞に関しては Rainer (1999) pp.4607-4608 を参照されたい。

<sup>6</sup> テニエール (2007)の第 117 章 4.では、フランス語の *coller* という動詞は通常「を落第させる」という意味を持つ他動詞であるが、「が落第する」という自動詞の意味でも、非再帰形の *coller* が使用される言語事実に言及している(フランス語における他動詞から派生した「他自動詞」の例)。

## 4. 「他再動詞」と「他自動詞」：事象構造の違い

### 4.1. 「他再動詞」の事象構造<sup>7</sup>

「他再動詞」は概ね「活動」、「到達点」、「結果状態」を持つ達成動詞として分類されよう。

#### (8) abrir(se) 「を開ける/が開く」の事象構造

活動 → 到達点 → 結果状態  
開けている 開けた 開いている

\*ただし例外として瞬間事象(到達動詞)の *apagar(se)* 「(電気)を消す/が消える」等がある。

### 4.2 「他自動詞」の事象構造

「他自動詞」の事象構造は、3つのグループに細分化可能。

#### 1：完結相(到達動詞)

#### (9) hervir 「を沸騰させる/が沸騰する」の事象構造

(活動なし) 到達点 → 活動の継続

沸騰させる 沸騰している \*このグループの使役交替動詞は *hervir* のみかもしれない。

#### (10) reventar 「を破裂させる/が破裂する」

(活動なし) 到達点 → 結果状態

破裂させる 破裂している

#### 2：完結相・非完結相どちらも表せる動詞グループ(Sánchez López が取り上げたタイプ)

#### (11) aumentar 「を増やす/が増える」の事象構造

活動・・・・(到達点)

増やす・・・・(明確な設定がなければ何かを「増やし切る」ことは不可)

\*このグループが「他自動詞」の中では多数派である。

#### 3：未完結相(活動動詞)

#### (12) botar 「をバウンドさせる/がバウンドする」の事象構造

活動・・・・

バウンドさせる・・・・ \*このグループとしては他に *girar* (英: spin)や *rezumar* (英: ooze)等がある。

## 5. 結論

・再帰代名詞の *se* は「活動」、「到達点」、「結果状態」の3つの要素を持つ動詞グループに現れる傾向にある。

・一方、「他自動詞」は3つのグループに分かれ、完結相と未完結相が混在しているが、いずれも上記の3要素を完全には備えていない。

仮説：スペイン語では、(8)のような「活動」、「到達点」、「結果状態」の3要素を表す複雑事象を、SVのみの自動詞構文で表すことができない。

<sup>7</sup> スペイン語における事象構造に関しては、Fernández Lagunilla & De Miguel (2000)を参考にした。彼女たちの研究はスペイン語の使役交替に関するものではないが、*se* が事象の到達点と結果状態を焦点化するという説は大いに参考とさせていただいた。

自動詞構文でも 3 要素を表す事象構造を保つために、se が自動詞構文では必須要素となる。  
\* 再帰代名詞を利用することで擬似的な使役構文とし、**(8)の事象構造を獲得**。<sup>8</sup>

瞬間事象の *apagar(se)* 「(電気)を消す/が消える」のケースでは明示的な「活動」を欠いているが、「スイッチを押す」という暗黙のプロセスが感じられるのではないか。

したがって Mendikoetxea (1999)の指摘通り、スペイン語の「他再動詞」では「活動」(使役事象)を行う外的原因(external cause)が想起されるのは自然なこと。

一方、外的原因が想起され得る使役交替動詞でも(*hervir* (英: boil), etc.)、「活動」、「到達点」、「結果状態」の全てを備えていなければ、se が現れない傾向にある。

また「他自動詞」の大半は自動詞が基本形であるとは思いますが<sup>9</sup>、他動詞を基本形とする「他自動詞」の存在も否定はできない。<sup>10</sup>

**事象構造の違いこそが、自動詞構文における se の出現の有無に関与すると主張する。**

#### 参考文献

- Fernández Lagunilla, Marina & Elena de Miguel (2000) “El operador aspectual *se*”, in *Revista Española de Lingüística* 30, 1, pp.13-43.
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論』, くろしお出版.
- Levin, Beth & Malka Rappaport Hovav (1995) *Unaccusativity at the syntax-lexical semantics interface*, The MIT Press Cambridge, Massachusetts, London.
- Mendikoetxea, Amaya (1999) “Construcciones inacusativas y pasivas”, in *Gramática descriptiva de la lengua española*, Ignacio Bosque & Violeta Demonte (eds.), pp.1575-1629. Espasa Carpe, Madrid.
- Moreno Cabrera, Juan Carlos (1984) “La diátesis anticausativa. Ensayo de sintaxis genaral”, in *Revista Española de Lingüística* 12, pp.21-43.
- Sánchez López, Cristina (2002) “Las construcciones con *se*. Estado de la cuestión”, in *Las construcciones con se*, Cristina Sánchez López (ed.), pp.13-163. Visor Libros, Madrid.
- テニエール, ルシアン (2007) 『構造統語論要説』, 小泉 保【監訳】, 研究社. [Tesnière, Lucien (1959) *Éléments de syntaxe structurale*, Klincksieck]
- Rainer, Franz (1999) “La derivación adjetival”, in *Gramática descriptiva de la lengua española*, Ignacio Bosque & Violeta Demonte (eds.), pp.4595-4643. Espasa Carpe, Madrid.
- Real Academia Española & Asociación de Academias de la Lengua Española (2009) *Nueva gramática de la lengua española*, Espasa Libros, Madrid.

<sup>8</sup> Levin & Rappaport Hovav (1995)と影山 (1996)では、自動詞の break にたいしても以下のような他動詞としての語彙概念構造を想定している。ただし統語的実現である項構造では x 項が抑制されるとする。  
*break*: [[x DO - SOMETHING] CAUSE [y BECOME BROKEN]] Levin & Rappaport Hovav (1996)  
本発表では、事象構造においても上記のような達成動詞的特徴を自動詞構文が維持すると考える。

<sup>9</sup> 最近の自動詞が他動詞化しつつある事例として、『スペイン語新文法』(*Nueva gramática de la lengua española*)では、従来は自動詞として用いられる *caer* 「が落ちる」が、「を落とす」という他動詞として用いられる周辺の現象も現れたことに言及している。

<sup>10</sup> 非使役交替動詞の例として、*purpurar* 「を紫紅色にする」と *purpurear* 「が紫紅色になる」の自他のペアがある。この 2 つの動詞は *augmentar* 「を増やす/が増える」と同様に完結相、未完結相のどちらも表せるタイプと考えられるが、形態的により複雑なのは自動詞の *purpurear* である。